

## ダボー11の日

青森県大連ビジネスサポートセンター

ビジネスアドバイザー（常勤） 劉 瑛

青森県大連ビジネスサポートセンター ビジネスアドバイザーの劉瑛（リュウ・エイ）です。この中国・大連市 現地レポートでは、大連市に住む人たちの生活の様子や最近の流行など、私が感じる「中国の今」をご紹介します。

第3回目となる今回は、中国の婚活事情等の市民生活についてご紹介します。

\*\*\*\*\*

11月11日は、日本の「ポッキー&プリッツの日」ですが、中国では「独身の日」として「ダボー11」とも呼ばれます。中国の独身男性は「光棍（何にもついていない棒）」と呼ばれ、よく考えると、ポッキーに似ていますね。

本来、「光棍」とは男性のみを指しますが、都市部の親にインタビューすれば、困っているのは男性の親よりも女の子の親の方が多いことでしょう。というのは、男性は、大体学歴やら家庭状況やらが自分より少し低い女性を相手にする習慣がありますので（逆に、女性は自分よりも少し高い条件の男性を探そうです）、学歴、家庭状況、仕事がともに高い女の子は、中々、良い結婚相手が見つからないことが多いです。ましてや、今の社会はグローバル化と言いながら、実際に会って話をするのが少なくなってしまうから、交際範囲は逆に本当に狭くなり職場の何人かしかいないとも言えます。22歳に大学を卒業し、そのまま誰とも親しくならず30歳近くになってしまうと、ますます結婚候補がいなくなっていきます。と言うのは、中国東北部では、未だに結婚が比較的早く、男性は大体30歳前に結婚してしまいます。女の子の方が結婚条件を下げようとしても、男性に面子があつたり、女性の容貌に対する期待があつたりして、中々、円満な話にならないことが多いです。よって、条件の良い（または相手に対する期待が高い）女の子や条件の良くない男の子は、どちらも結婚するのが大変難しい状況です。

毎週土曜日の午前中、市中心部に位置する労働公園には、子どもの結婚を心配した親達が発自的に集まり、「うちの子」の結婚相手の条件を書いた看板を挙げて見合いのチャンスを探す光景が見られます。その集まりは数百人単位と、とても大規模で、中国の結婚相手探しの難しさを物語っています。



大連市 労働公園 親達による週末婚活の風景

という具合に、中国では、11月11日は少し寂しいイメージのある日なのに、なぜか去年から「ダボー11 特別セールス」としてインターネット販売の年間最大のお祭りの日になりました。この日は、大量の商品が5割引以上のセールスになります。中国国内のインターネット通販で有名な [www.taobao.com](http://www.taobao.com) では、去年の11月11日は1日で191億人民元の販売額に達し、今年は2万店以上の店舗が3万ブランド以上、14億点以上の商品をセールスに出し、販売額が350億人民元を越えました。今年も、11月11日0時0分55秒には、既に1億人民元の売り上げに達したとのことで、寝ずにセールスを待っている「独身の方」が多いからかしら。また、最近のtaobaoでは、物を買うだけでなく、投資もできます。普通の銀行では、投資商品なら最低金額5万人民元などの制限がありますが、taobaoでは皆さんから広くお金を集めるから、少ない金額でもより高い収益率の投資商品が買えるようです。これも中国国内では大人気で、11月11日12時までには、5.5億人民元もの投資商品が売上げを集めたようです。